

諸 報 告

ページ

第 1	前回幹事会以降の経過報告	
1	会長等出席行事	8
第 2	各部・各委員会等報告	
1	部会の開催とその議題	8
2	幹事会附置委員会の開催とその議題	8
3	機能別委員会の開催とその議題	9
4	分野別委員会の開催とその議題	10
5	課題別委員会の開催とその議題	22
6	若手アカデミーの開催とその議題	23
7	サイエンスカフェの開催	23
8	総合科学技術・イノベーション会議報告	24
9	慶弔	24
10	インパクト・レポート	25

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
5月17日(木)	IUPAC会長 Qifeng Zhou氏 表敬訪問	山極会長 武内副会長

(注) 部会、委員会等を除く。

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第三部拡大役員会 (第5回) (4月26日)

- ① 前回第三部会のフォローアップ
- ② 理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会 (仮称) について
- ③ 第三部におけるSDGsの推進について
- ④ 理工・工学系学協会連絡協議会のフォローアップ
- ⑤ 平成30年度第三部夏季部会について
- ⑥ その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 危機対応科学情報発信組織準備委員会 (第1回) (5月9日)

- ① 役員選出
- ② 本準備委員会設立の経緯説明と基礎情報の共有
- ③ 議論：今後の進め方
- ④ 今後のスケジュール
- ⑤ その他

(2) 広報委員会 ホームページ編集分科会 (第3回) (5月24日)

- ① 日本学術会議ホームページの改善について
- ② その他

(3) 危機対応科学情報発信組織準備委員会 (第2回) (5月30日)

- ① 事例報告 (2件)
 - ・ 芳賀委員より
 - ・ 高橋委員長より
- ② 議論
- ③ 今後の予定

④その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) **科学と社会委員会 年次報告検討分科会** (第1回) (4月26日)

- ①役員の決定
- ②今後の運営方針について
- ③その他

(2) **科学者委員会 学術体制分科会** (第2回) (4月27日)

- ①内閣府担当官より大学改革に関するヒアリング
- ②分科会の今後の進め方について
- ③その他

(3) **科学と社会委員会 市民と科学の対話分科会** (第3回) (5月2日)

- ①「サイエンスカフェ」に関する共通理解
- ②今年度のサイエンスカフェ東京開催について
- ③サイエンスカフェ地方開催について
- ④その他

(4) **国際委員会 アジア学術会議等分科会** (第4回) (5月10日)

- ①アジア学術会議等分科会 (第2回) 議事要旨 (案) について
- ②AASSA関連出張及びプロジェクト等の報告
- ③2018年AASSA年間活動計画等について
- ④第18回アジア学術会議年次会合について
- ⑤アジア学術会議非加盟機関調査 (シンガポール) の報告
- ⑥ISSC及びICSU脱退について

(5) **科学者委員会** (第7回) (5月16日)

- ①東北地区会議主催学術講演会開催の件

(6) **国際委員会 ISC等分科会** (第3回) (5月16日)

- ①国際科学会議 (ICSU) の電子総会 (eGA) について

(7) **科学者委員会 男女共同参画分科会 Gender Summit10フォローアップ小分科会**
(第2回) (5月17日)

- ①役員の選出について
- ②学術フォーラム「ジェンダー視点が変わる科学・技術の未来」について
- ③今後の展開について

④その他

(8) 科学と社会委員会 メディア懇談分科会 (第2回) (5月24日)

- ①学術会議の社会への発信について
- ②国際発信について
- ③その他

(9) 科学者委員会 学協会連携分科会 (第2回) (5月28日)

- ①前回議事要旨案について
- ②理学工学学協会連絡協議会の意見シート (回答結果) について
- ③学協会法人化問題に関する小委員会の設置について
- ④協力学術研究団体の指定要件について
- ⑤その他

(10) 国際委員会 (第8回) (5月30日)

- ① 国際業務に参画するための特任連携会員の推薦について

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 史学委員会 中高大歴史教育に関する分科会 (第3回) (4月27日)

- ①分科会主催シンポジウム (8月4日、日本学術会議講堂) について
- ②新しい学習指導要領 (案) について
- ③その他

(2) 地域研究委員会 地域情報分科会 (第2回) (4月27日)

- ①関本義秀先生 (東京大学生産技術研究所) のご講演
「様々な利用シーンにおける地名とGISにおけるジオコーディング技術」
- ②地名に関する報告 (案) の検討
- ③大型研究計画の申請について
- ④小委員会の設置について
- ⑤特任連携会員の委嘱について
- ⑥その他

(3) 地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星学委員会合同 地球環境変化の人的側面 (HD) 分科会 (第2回) (4月27日)

- ①HDに関する国際的・国内的動向について
- ②シンポジウムの開催について

- ③小委員会の設置について
- ④委員の拡充について
- ⑤その他

(4) 地域研究委員会 多文化共生分科会 (第2回) (4月28日)

- ①今期の提言・報告について
講演・ディスカッション「外国人生徒の高校進学の実状と進学を阻むもの」
角田 仁 (東京都立一橋高等学校主任教諭)

(5) 言語・文学委員会 文化の邂逅と言語分科会 (第2回) (4月29日)

- ①平成32年度以降の入試制度 (英語) について
- ②今後の活動方針
- ③その他

(6) 哲学委員会 世界哲学構築のための分科会 (第1回) (5月1日)

- ①自己紹介
- ②分科会役員を選出と活動方針に関する討議
- ③世界哲学会招致に関する情報・意見交換
- ④その他

(7) 経済学委員会 持続的発展のための制度設計分科会 (第1回) (5月8日)

- ①分科会役員決定
- ②外部講師によるレクチャー
講師：八代尚弘氏 内閣府規制改革推進会議委員会、
昭和女子大学グローバルビジネス学部長

(8) 言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同 アジア研究・対アジア関係に関する分科会 (第2回) (5月13日)

- ①第24期分科会の審議計画について
- ②アジア研究関係大型データベースの作成と利用について
報告者：東京大学大学院人文社会系研究科 下田正弘教授
「デジタル化時代の人文学の学術インフラについて -アジアの視点から-」
- ③その他

(9) 社会学委員会 Web調査の課題に関する検討分科会 (第2回) (5月19日)

- ①今後の分科会活動について (継続審議)
- ②Web調査の利点と問題点の検討
- ③その他
①議事要旨の公開に関するガイドライン

②その他

(10) 政治学委員会 IEHA分科会 (第2回) (5月26日)

- ①WEHC2018の準備状況について
- ②その他

(11) 政治学委員会 政治思想・政治史分科会 (第2回) (5月26日)

- ①公開シンポジウム(10月)の開催について
- ②業績評価のあり方について
- ③今後の事業計画など
- ④その他

(12) 哲学委員会 いのちと心を考える分科会 (第2回) (5月27日)

- ①ゲノム編集の倫理問題
- ②今年度の分科会スケジュールについて
- ③その他

(13) 政治学委員会 行政学・地方自治分科会 (第2回) (5月27日)

- ①2018年度の活動指針について
- ②研究評価基準のあり方について

(14) 心理学・教育学委員会 排除・包摂と教育分科会 (第3回) (5月28日)

- ①報告1 西田芳正委員
- ②報告2 橋本光能氏(大阪府教育庁教育監)
- ③その他

(15) 法学委員会 「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会 (第2回) (5月28日)

- ①報告1 「高校新科目『公共』と新学習指導要領」(仮題) 吉田俊弘先生(大正大学教授・参考人)
- ②報告2 「新科目『公共』について—高校教科書執筆経験から」(仮題) 愛敬浩二委員
- ③今後の予定
- ④その他

(16) 社会学委員会 ジェンダー政策分科会 (第1回) (5月30日)

- ①役員体制について
- ②ジェンダー政策分科会の今後の計画について
- ③その他

(17) **法学委員会 社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会** (第2回) (5月31日)

①ゲストによる報告 (報告各40分+討論60分)

ートランスジェンダーについてー

①三橋 順子氏 (性社会・文化史研究者)

②針間 克己氏 (精神科医・はりまメンタルクリニック院長)

②今後の課題について

③その他

第二部担当

(1) **農学委員会 農学分科会** (第2回) (4月27日)

①話題提供 (生源寺委員)

②今後の進め方

③その他

(2) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同 植物科学分科会** (第1回)
(5月1日)

①分科会委員自己紹介、第24期役員選出

②第23期の総括

③第24期の課題

④第24期の活動計画

⑤その他

(3) **薬学委員会 化学・物理系薬学分科会** (第2回) (5月10日)

①今後の活動計画について

②その他

(4) **農学委員会・食料科学委員会合同 P S A分科会** (第2回) (5月11日)

①役員の選出

②環境学委員会からの委員の追加について

③P S A幹事会報告

④第24期の活動計画について

⑤その他

(5) **歯学委員会** (第3回)、**歯学教育分科会** (第2回) **合同会議** (5月13日)

①当日のシンポジウムの「報告」化について

②今後のシンポジウム、公開講座の開催計画に関して

③報告、提言のテーマに関して

④その他

(6) 農学委員会・食料科学委員会合同 食の安全分科会 (第2回) (5月14日)

- ①役員 (幹事) について
- ②第24期の活動について
- ③その他

(7) 農学委員会・食料科学委員会合同 遺伝子組換え作物分科会 (第2回) (5月14日)

- ①ゲノム編集技術の現状
 - 土岐精一先生 (農研機構生物機能利用研究部門先進作物ゲノム改変ユニット長)
 - 中村崇裕先生 (九州大学大学院農学研究院植物分子機能学准教授)
 - 西田敬二先生 (神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教授)からの報告と討議
- ②その他

(8) 食料科学委員会 獣医学分科会 (第2回) (5月14日)

- ①第24期の活動について
 - 1) シンポジウムの企画
 - 2) 獣医学会関連学会等のシンポジウムの後援について
- ②その他
 - 今後の開催予定について

(9) 健康・生活科学委員会 家政学分科会 (第3回) (5月15日)

- ①24期の活動について
- ②生活科学系コンソーシアムの活動について
- ③その他

(10) 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ分科会 (第1回) (5月17日)

- ①第24期日本学術会議、健康・生活科学委員会ならびに健康・スポーツ科学分科会のこれまでの活動説明
- ②委員長の選任ならびに副委員長・幹事の指名
- ③東京オリパラに並行して開催予定の国際会議 ICSEMIS の準備状況について
- ④24期に健康・スポーツ科学分科会が取り組む活動について
- ⑤特任連携会員の指名について
- ⑥その他

(11) 臨床医学委員会 老化分科会 (第1回) (5月18日)

- ①役員 (委員長、副委員長、幹事) の選出について
- ②今後の活動方針について

③その他

(12) 食料科学委員会 水産学分科会 (第4回) (5月23日)

- ①中長期的な水産資源利用について
- ②シンポジウム開催について
- ③その他

(13) 薬学委員会 医療系薬学分科会 (第2回) (5月24日)

- ①第24期の活動方針について
- ②その他

(14) 基礎医学委員会 機能医学分科会 (第1回) (5月24日)

- ①役員(委員長、副委員長、幹事)の選出について
- ②今後の活動方針について
- ③その他

(15) 基礎医学委員会 IUPHAR分科会 (第1回) (5月24日)

- ①役員(委員長、副委員長、幹事)の選出について
- ②今後の活動方針について
- ③その他

(16) 農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分科会 (第2回) (5月24日)

- ①公開シンポジウムについて
- ②今後の活動について
- ③今後の予定
- ④その他

(17) 農学委員会・食料科学委員会合同 CIGR分科会 (第2回) (5月24日)

- ①CIGR Section VI シンポジウム 2019 in Japan について
- ②World Congress2022 について
- ③その他

(18) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 遺伝学分科会 (第1回) (5月25日)

- ①役員(委員長、副委員長、幹事)の選出について
- ②第23期の活動状況について
- ③遺伝学用語の改定編集の現状と課題について
- ④遺伝資源をめぐる名古屋議定書関連問題について
- ⑤その他

(19) **健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会** (第1回) (5月25日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出
- ②今期の活動方針の検討
- ③その他

第三部担当

(1) **数理科学委員会 数学分科会** (第1回) (4月27日)

- ①役員の選出
- ②第23期の「数理科学と他の科学分野や産業との連携の基盤整備に向けた提言」の内容の実現に向けた情報交換と具体的方策について
- ③その他

(2) **数理科学委員会 IMU分科会** (第2回) (4月27日)

- ①第1回議事録の確認
- ②特任連携会員について
- ③Japan Forum 準備状況
- ④IMU総会についての打合せ
(ICM2022 開催地候補、CDC理事選、その他)
- ⑤その他

(3) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク
検討分科会 安全目標の検討小委員会** (第1回) (4月27日)

- ①役員の選出について
- ②今期の活動方針
- ③安全工学シンポジウムについて
- ④その他

(4) **情報学委員会 ソフトウェア学分科会** (第2回) (5月1日)

- ①「提言」の「骨子案」について
- ②「提言」作成に向けた今後の取組、スケジュール
- ③その他

(5) **環境学委員会 環境思想・環境教育分科会** (第2回) (5月1日)

- ①「記録」の作成・提出について
- ②小委員会の設置について
- ③その他

(6) 物理学委員会 IAU分科会 (第2回) (5月8日)、物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会 (第2回) (5月8日) 合同分科会

IAU分科会

- ① IAU新規会員登録状況 (報告)
- ② IAUウィーン総会について
- ③ IAU100周年関連事業について
- ④ IAU諸活動について
- ⑤ その他

天文学・宇宙物理学分科会

- ① 学術会議シンポジウムの開催について
- ② キャリアパス問題について
- ③ 共同利用研究などの活動報告
- ④ マスタープラン2020について
- ⑤ その他

(7) 総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IFAC分科会 自動制御の多分野応用小委員会 (第1回) (5月9日)

- ① 役員を選出について
- ② 自動制御連合講演会運営に関する事項
 - ① 第60回自動制御連合講演会報告
 - ② 制御工学教員協議会報告
 - ③ 第61回自動制御連合講演会準備状況
 - ④ 同制御工学教員協議会計画
 - ⑤ 第62回自動制御連合講演会計画
- ③ IFAC分科会の活動について
- ④ 今後の活動計画

(8) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会 心と脳など新しい領域検討小委員会 (第1回) (5月11日)

- ① 第24期学術会議の状況
- ② 委員自己紹介
- ③ 役員決定
- ④ 23期の活動の振り返り
- ⑤ 24期の活動方針と計画
- ⑥ 話題提供/則内まどか委員 (首都大学東京)
- ⑦ その他

(9) 材料工学委員会 新材料科学検討分科会 (第1回) (5月14日)

- ① 役員を選出

- ②特任連携委員の選出
- ③23期の活動について
- ④24期の活動方針について
- ⑤その他

(10) 化学委員会 IUPAC分科会 (第2回) (5月15日)

- ①IUPACにおける日本の役割について、日本におけるIUPACの活動について

(11) 地球惑星科学委員会 IUGS分科会 (第2回) (5月16日)

- ①各小委員会からの報告事項および活動方針
- ②72nd IUGS Executive Committee Meeting 報告
- ③Bureau 会議日本開催について
- ④Geohazard Task Group 活動報告
- ⑤ICS-SQS活動報告とくにChibaniannについて
- ⑥ジオパーク委員会および活動に関して
- ⑦その他

(12) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP合同分科会 SPARC小委員会 (第1回) (5月19日)

- ①小委員会役員を選出
- ②第24期の活動内容について
- ③JpGU連合大会でのSPARCセッション(5/23)の準備状況について
- ④SPARC General Assembly 2018(10/1-5 京都開催)の準備状況について
- ⑤その他

(13) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP合同分科会 GLP小委員会 (第2回) (5月20日)

- ①追加委員の紹介
- ②大型研究計画にかかわる議論
- ③その他

(14) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP合同分科会 Future Earth Coasts小委員会 (第1回) (5月20日)

審議事項

- ①役員(委員長、副委員長、幹事)の選任
- ②プロジェクトの名称について(Future Earth Coast japan 略称FEC Japan(仮))
- ③今後の活動計画
- ④その他

報告事項

- ①Global Future Earth Coast との関係について
- ②J p G U 2 0 1 8 「FutureEarth-GRPs による地球環境変化研究の統合」での発表について
- ③Future Earth Coast Japan (仮) の活動予算について
- ④その他

(15) **土木工学・建築学委員会** (第5回) (5月21日)

- ①開会挨拶と趣旨説明
- ②会員の自己紹介と抱負
- ③連携会員の自己紹介
- ④大西隆前会長のお話
- ⑤第24期の第三部、土木工学・建築学委員会の活動方針について
- ⑥土木工学・建築学委員会各分科会の活動方針
- ⑦第23期の日本学術会議の国際活動とフューチャー・アースの推進と連携
- ⑧本委員会と関連の深い委員会等の活動紹介
- ⑨意見交換
- ⑩閉会挨拶

(16) **土木工学・建築学委員会 低頻度巨大災害分科会** (第1回) (5月21日)

- ①自己紹介、これまでの経緯および役員選出
- ②話題提供・討議：磯部委員「災害対策の枠組み現状(仮題)」
- ③次回の予定

(17) **土木工学・建築学委員会 次世代構造システム分科会** (第2回) (5月21日)

- ①活動方針 (第一回からの続き)
- ②学協会連携について
- ③全大会について
- ④その他

(18) **環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP合同分科会 C l i C 小委員会** (第1回) (5月21日)

- ①役員を選出
- ②C l i C 小委員会24期活動について
- ③学術会議委員会構成について
- ④C l i C S S G 活動報告
- ⑤W C R P 戦略プラン
- ⑥関連シンポジウム報告
- ⑦意見交換
- ⑧その他

(19) 環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 長寿・低炭素化分科会 (第2回) (5月22日)

- ①話題提供1：伊香賀委員
- ②話題提供2：羽山委員
- ③前期提言の長寿に関する項目の整理
- ④その他

(20) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP合同分科会 SOLAS小委員会 (第1回) (5月22日)

- ①役員の選出
- ②SOLASサマースクール、SOLASサマースクールへの若手派遣、小委員会活動
- ③今後のSOLAS-national representative personを選定
- ④SOLAS-OSC札幌2019準備の進捗状況報告
- ⑤その他

(21) 土木工学・建築学委員会 インフラ高度化分科会 (第1回) (5月22日)

- ①インフラ高度化分科会趣旨説明
- ②自己紹介
- ③役員選出
- ④今後の進め方に関する協議
- ⑤次回以降の日程

(22) 土木工学・建築学委員会 IRDR分科会 (第2回) (5月22日)

- ①本年度の活動方針・計画について
- ②IRDR科学委員会等の最近の動向について
- ③委員よりの報告
- ④その他

(23) 土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分科会 (第2回) (5月23日)

- ②分科会委員の追加について
- ③関東地方の17の大規模氾濫減災協議会の活動に伴う検討・研究ニーズ等について (国土交通省関東地方整備局 小林 稔 河川部長)
- ④今後の分科会の進め方について
- ⑤佐賀低平地への適応策実装検討小委員会
- ⑥その他

(24) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP合同分科会 iLEAPS小委員会 (第1回) (5月23日)

- ①委員名簿の確認と自己紹介
- ②委員長と幹事について
- ③iLEAPS International Project Office (I P O) について
- ④iLEAPS Science Conference について
- ⑤ i L E A P S - J a p a n の今後の活動について (研究集会・事務体制・W e b など)
- ⑥その他

(25) 総合工学委員会 科学的知見の創出に資する可視化分科会(第1回)(5月24日)

- ①活動方針について
- ②小委員会設置について
- ③その他

(26) 化学委員会 高分子化学分科会(第2回)(5月24日)

- ①大型研究マスタープランについて
- ②高分子科学の最近の情勢について
- ③その他

(27) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 F E ・ W C R P 合同分科会 C L I V
A R 小委員会(第1回)(5月24日)

- ①役員選出
- ②24期の活動方針の決定
- ③その他

(28) 土木工学・建築学委員会 都市・地域とデザイン分科会(第2回)(5月25日)

- ①話題提供
喜多俊之先生
- ②今後の予定

(29) 心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・
土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会(第2回)(5月28日)

- ①話題提供
 1. 国土交通省 公園行政部門 (都市公園法改正など)
(都市局公園緑地・景観課 公園利用推進官 野村亘 他)
 2. 公園を子どもの成育環境として向上するための課題
(禁止事項とリスクプレイ)(木下勇委員)
 3. 公園と保育所 (三輪律江委員)
- ②全体討議

(30) 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 I U T A M 分科会(第3回)、理

論応用力学企画小委員会（第1回）合同会議（5月28日）

- ①小委員会の設置目的、メンバーについて
- ②IUTAMシンポジウムの提案について
- ③ICATM2024の招致について
- ④理論応用力学講演会について
- ⑤その他

（31）化学委員会 物理化学・生物物理化学分科会（第2回）（5月29日）

- ①物理化学分野における情報科学の有益な活用の可能性について
- ②地方にある大学における教育研究環境の現状把握と問題提起について
- ③その他

（32）化学委員会 材料化学分科会（第2回）（5月31日）

- ①委員長報告
- ②第24期材料化学分科会において議論すべき課題、テーマについて
- ③今後の予定
- ④その他

5 課題別委員会の開催とその議題

（1）自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会（第1回）（5月2日）

- ①自己紹介
- ②委員長の選出と副委員長・幹事の指名
- ③本課題別委員会の趣旨説明
- ④企画分科会の設置について
- ⑤安全工学シンポジウムについて
- ⑥今期の活動方針等の審議
- ⑦その他

（2）フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（第4回）（5月17日）

- ①Future Earthの国際状況
- ②Future Earthの国内状況
- ③Future Earthに関する研究レビュー
- ④Future Earthの研究動向
- ⑤その他

（3）フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 フューチャー・アース国内連携分科会（第1回）（5月17日）

- ①役員を選出

- ② F E 国内連携分科会設置とその経緯について
- ③ F E 日本委員会のあり方について
- ④ 日本における F E の活動状況について（日本ハブ、アジア事務局）
- ⑤ その他

（４）フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第１回）（５月１７日）

- ① 分科会役員を選出と承認
- ② 前期分科会の申し送り事項
- ③ 分科会に関係する国際的・国内的動向
- ④ 今期の分科会の活動方針
- ⑤ その他

６ 若手アカデミーの開催とその議題

（１）若手アカデミー 運営分科会（第１回）（４月２７日）

- ① 渡辺副会長、及び、科学と社会委員会との連携について
- ② I N G S A 2 0 1 8 への協力について
- ③ その他

（２）若手アカデミー イノベーションに向けた社会連携分科会（第１回）（５月２８日）

- ① 自己紹介
- ② 委員長選出及び役員選出
- ③ 2 4 期の活動方針について
- ④ 分科会主催シンポジウムについて
- ⑤ その他

７ サイエンスカフェの開催

日時：５月８日（火） 1 5 : 0 0 ~ 1 6 : 4 0

場所：三重県立 熊野古道センター 1 階ホール

テーマ：「南海トラフを考える」

講師：木村 学（日本学術会議第三部会員、東京大学名誉教授）

津村 善博（三重県総合博物館学芸員）

挨拶：春山 成子（日本学術会議第三部会員、三重大学教授）

進行：竹沢 泰子（京都大学人文科学研究所 教授、日本学術会議連携会員）

日時：５月１７日（木） 2 0 : 3 0 ~ 2 2 : 0 0

場所：ShotBar 周太郎

テーマ：「水と油滴から「生物」を考える」

講師：佐藤 志帆（同志社大学生命科学研究科・大学院生）

コーディネーター：中村 征樹（大阪大学准教授・日本学術会議連携会員）

8 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

5月10日（木） 欠席

5月17日（木） 出席

5月24日（木） 出席

5月31日（木） 出席

9 慶弔

・慶事

平成30年春の褒章受章者 平成30年4月28日公表

【紫綬褒章】

河西 春郎（連携会員（第22－23期、第24－25期））

御厨 貴（連携会員（第20期））

平成30年春の叙勲受章者 平成30年4月29日公表

【瑞宝大綬章】

佐々木 毅（連携会員（第20期－21期）、会員（第18期－19期））

平野 眞一（連携会員（第20期－21期））

吉本 高志（連携会員（第22期－23期）、会員（第20期－21期））

【瑞宝重光章】

濱田 道代（連携会員（第20期））

【瑞宝中綬章】

荒木 信幸（連携会員（第20期－21期））

磯部 稔 (連携会員 (第20期-21期))
井上 俊 (連携会員 (第20期-21期))
今中 忠行 (連携会員 (第22期-23期)、会員 (第20期-21期))
小山 勝二 (連携会員 (第20期-21期、第22期-23期))
齋藤 軍治 (連携会員 (第21期-22期))
櫻井 克彦 (連携会員 (第21期-22期))
篠田 純男 (連携会員 (第20期-21期)、会員 (第18期-19期))
山下 興亜 (連携会員 (第21期-22期)、会員 (第20期))

・ご逝去

山岸 俊男 (やまぎし としお) 平成30年5月8日 享年70歳
元会員 (第20-21期)、元連携会員 (第22-23期)、北海道大学名誉教授

10 インパクト・レポート

(1) (提言)「自動運転のあるべき将来に向けて—学术界から見た現状理解—」 インパクト・レポート

1 提言内容

- 1) 自動運転の現状を技術的・法的に正しく理解して対策を講じることが必要である。
- 2) 自動運転の研究開発を社会的課題の解決と結びつけて考える自動運転の研究開発は、安全安心な交通社会をめざすものであり、交通事故の早期大幅削減を実現するために、運転支援技術(レベル1、2)の高度化のための支援と普及方策を進めるべきである。
- 3) 自動運転が少子高齢化社会の抱える課題解決に寄与するためには、過疎地域等での運転者不足、物流分野の労働力不足等に対応できるよう、社会的受容性や制度設計といった社会科学的課題を含む産学連携プロジェクトとして推進する必要がある。
- 4) 自動運転がもたらす未来社会のモビリティのあり方について、基礎から出口までを見据えた長期的な視点に立って検討する産官学連携の体制を整備すべきであり、産業競争力の強化の視点から国際協調をふまえつつこの分野に先導的に取り組んでいく必要がある。

2 提言の年月日

平成29年(2017年)6月27日

3 社会的インパクト

(1) 政策

提言を作成した小委員会の委員が各省庁の政策決定に関して積極的に関与した。(括弧内は小委員会委員)

○内閣官房 IT 総合戦略室

官民連携・ITS ロードマップ (須田) 2018 版の準備中
自動運転に係る制度整備大綱 (須田、鎌田)

○内閣官房 日本経済再生事務局

自動運転に係る官民協議会 (鎌田)

○内閣府 SIP 自動運転システム

推進委員会構成員 (永井)

◇ 研究受託：社会受容性・産学連携 (須田)、HMI (北崎)

○経済産業省・国土交通省

自動走行ビジネス検討会 (鎌田、永井、須田、高田)
同安全性評価手法 WG (毛利)

○国土交通省

車両安全対策検討会自動運転車両安全対策 WG (鎌田、須田)
車両安全対策検討会自動走行車公道走行実証 WG (鎌田)

○警察庁

技術開発の方向性に即した自動運転の段階的実現に向けた調査検討委員会 (須田)

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会、等の反応 (招待講演は多数、一部記載)

- ・日本学術会議、安全工学シンポジウム、(OS 企画)、2017.7
- ・自動車技術会、自動運転委員会を設置、2017 - 2018
- ・JST シンポジウム、S イノベ、(永井、鎌田) 神奈川工科大学、2017.8
- ・東京地方裁判所で講演、(永井) 2017.11.13
- ・経団連 産業競争力強化委員会企画部会で講演 (鎌田 12/15)
- ・経済同友会 新産業革命と規制法制改革委員会で講演 (鎌田 1/30)

4 メディア

- ・自動運転の現状について、弁護士ドットコム (平成 29 年 6 月 15 日) 取材
- ・中部新聞 (平成 29 年 12 月 8 日朝刊)、取材 (永井)

5 考察と自己点検

小委員会発足時から、自動運転に対する世間の期待と関心が高く、2020年のオリパラをマイルストーンとして研究開発計画が急速に進められてきた。一方で、行政面、学術面、市民社会面の様々な角度から、各省庁や学協会等で議論がなされてきた。提言を作成した委員は積極的にこれらの検討会や委員会、さらにはプロジェクトに参加し、少なからず政策実現に反映してきた。

こうした中で公道での走行実験が各地で始まっており、自動運転に絡んだ死亡事故も海外で発生している。当面の事故調査や安全面の検証は必須ではあるが、将来の社会を見据えた長期的な視点での検討が必要である。本提言は、工学系（第三部）の専門家を中心にまとめたが、社会科学系（第一部）、医療看護系（第二部）の専門家を含めた課題別委員会では、より広範な視点での議論をしたい。

インパクト・レポート作成責任者
第23期「車の自動運転検討小委員会」委員長 永井正夫

（2）（提言）「学術の総合的發展をめざして—人文・社会科学からの提言—」 インパクト・レポート

1. 提言内容

（1）背景

2015年6月8日に、文部科学大臣が発したいわゆる「6.8通知」は、人文社会科学系学部や研究者に多大なショックを与えた。日本学術会議は、2度にわたって幹事会声明を出し、2度のシンポジウムを開催した。本提言は、これらの成果をふまえ、過去の重要な提言（2001年、2010年展望）を継承する包括的な提言としてまとめたものである。

（2）提言の内容

本提言の主な内容は、以下の4点である。

（1）教育の質を変え、若者の未来を拓く

グローバル基準に照らすと、日本の高等教育の弱点は、①学部教育がグローバル化に十分対応できないまま、資格教育にシフトしつつあること、②大学院教育が高度専門職業人養成として十分機能していないこと、にある。経団連声明（2015年9月）が指摘する通り、理工系専攻であっても人文・社会科学の知識は必要であり、人文・社会科学系専攻であっても理数系の基礎的知識は必要である。日本の若者が世界に伍して活躍するには、高等教育の質改善は急務である。大学生の半分が人文・社会科学系学部 に在籍しながら、就職時に専攻や成績は不問にされるという現状を変えるためにも、人文・社会科学は率先して教育の質の向上に取り組み、「若者の未来を拓く」という重要かつ切実な「社会的要請」に応えねばならない。国は、そのような質改善の取り組みを進める国公私立大学に対して中長期的視点で支援することが期待される。併せて、人文・社会科学系を学ぶ学生の多くは私立大学に在籍することから、奨学金制度の充実など経済的負担の軽減にも配慮されなければならない。

（2）研究の評価指標を再構築する

人文・社会科学の研究は、自然科学に比べて評価や成果がわかりにくい。短期での研究成果が出づらいうえに、用いる言語が多様であるために、一律の評価指標を設定するのはむずかしいからである。しかし、それは、人文・社会科学系は国民にわかりやすい評価や成果を示さなくてよいという弁明にはならない。今後は、学協会がそれぞれ独自に客観的な

評価指標を確立し、国民にそれを公表することにより、人文・社会科学研究の「見える化」を図る必要がある。国は、人文・社会科学系の研究成果を中長期的に評価するとともに、学協会が立案する新しい評価指標を競争的資金等の審査基準に適切に取り込むことが望まれる。

(3) 地方創生に貢献する

地方に所在する大学、とりわけ地方国立大学には、国立大学として国民全体に貢献すること、及び、「地方創生」の要として地域の発展に寄与することという二つの役割がある。長年にわたり、地方国立大学の人文・社会科学系は、地方文化の発展や継承に貢献してきた。公立大学や地方私立大学の貢献は言うまでもない。現在、地方国立大学の多くが運営費交付金の削減という窮状にあえぎながらも、さまざまな改革に取り組んでいる。そのような改革のなかには、人文・社会科学系の縮小という方向も認められる。しかし、地域のニーズに即した「社会的要請」に応じて「地方創生」を推進するためには、地方国立大学が文理を含む総合大学としての「強み」を積極的に果たすことが欠かせない。大学改革にあたっては、学長・教職員・地域社会の緊密な協力・信頼関係にもとづく、関係者が一丸となった改革が不可欠である。国公私を通じ、地方創生に貢献する改革に対して、国による適切な予算措置が期待される。

(4) 女性と若者が活躍する社会を創る

人文・社会科学系は、自然科学系に比べて、女子学生比率が高く、女性教員比率も高い分野が多い。その意味で、人文・社会科学は、「女性活躍」の推進基盤として重要である。それにもかかわらず、この現実を踏まえた配慮が人文・社会科学系の女子学生や女性教員になされているとは言えない。国は、「理系女子」のみならず人文・社会科学系に対しても、女性リーダー育成や研究者支援について、全体的・包括的な女性研究者支援策を一層強化する必要がある。併せて、次世代を担う若手研究者支援のために、国・大学の双方が協力して、任期付き雇用や非常勤報酬の見直しに取り組むことが求められる。

2. 採択年月日

2017年6月1日

3. 社会的インパクト

(1) 政府

2017年6月1日、井野瀬久美恵副会長（当時）と三成美保第一部副部長（当時）が文部科学省高等教育局長及び課長に本提言を手交した。その後、課長・井野瀬副会長・三成第一部副部長の3名で1時間ほど意見交換を行った。本提言の意義は十分に認識・理解され、今後とも協力して十分な意見交換と情報共有を行う旨を確認した。

(2) 研究教育機関・学協会・市民社会等の反応

「人文社会提言」は、以下のシンポジウム等で検討された。これらのことから、「人文社会提言」が、人文社会を議論するさいの基本文書と認識され、活用されていることがわかる。

①公開シンポジウム「教育と学術の明日を考える」（2017年7月30日：日本学術会議第一部・島根大学主催）の第2部「人文・社会科学からの提言」で、「提言「学術の総合的發展をめざして—人文・社会科学からの提言」をめぐって」と題して三成美保が講演を行い、島根大学関係者3名がコメントを行った後、全体討論を行った。

②京都大学「第4回 人文・社会科学系研究推進フォーラム」（2018年3月16日）におけるパネルディスカッション「研究の発展につながる評価とは—人文・社会科学系研究の未来形—」に三成美保がパネリストとして参加し、「人文社会提言」をもとに報告を行った。

4. メディア

（1）記者会見

2017年6月1日、文部科学省内で記者会見を実施した。説明者は、井野瀬久美恵副会長（当時）と三成美保第一部副部長（当時）である。記者会見に集まったメディア関係者は、16名であった。記者の質問の関心は、研究評価の検討に集中した。

（2）新聞記事

記者会見については、日刊工業新聞が記事にした。記事内容は以下のとおりである。

日刊工業新聞の記事

* 「学術会議、研究評価を“見える化” 人文・社会科学振興へ提言」（2017年6月2日）
<https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00430514>

* 「「文系不要論」に待った！ジェンダーの視点で新たな学術開拓へ——男女共同参画推進ネットワークが動き出す」（2018年5月16日）
<https://newswitch.jp/p/12952>

5. 考察

「人文社会提言」は、2015年の「6. 8通知」に直接のきっかけがあるとはいえ、長年の人文社会科学問題を継承する文書であることを目指したため十分な時間をかけて議論した。その結果、社会的関心がやや低くなったあとでの公表となったことは否めない。しかしながら、過去の提言を継承して、学術の発展のために人文社会科学が果たすべき課題を包括的に論じる文書にするとの意図は、学術会議及び大学・研究機関には十分に理解され、シンポジウムの基礎資料として活用された。英訳版も作成され、国際社会でも活用が期待される。また、24期には、「第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会が発足し、「人文社会提言」が提起した諸問題を引き続き検討することとなった。目下、人文社会分科会が、研究評価のあり方など本提言の具体的課題について審議を進めているところである。

インパクト・レポート作成責任者

第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会（23期）幹事 三成 美保